

## ◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が176例(男性100例(10歳代17例, 20歳代33例, 30歳代17例, 40歳代14例, 50歳代7例, 60歳代2例, 70歳代1例, 80歳代3例, 年齢非公開6例), 女性70例(10歳代12例, 20歳代24例, 30歳代16例, 40歳代7例, 50歳代3例, 60歳代4例, 70歳代1例, 80歳代1例, 年齢非公開2例), 性別及び年齢非公開6例)あり, 本年の累積報告数は20,860例になりました。  
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。  
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **腸管出血性大腸菌感染症**の報告が2例(20歳代男性及び10歳未満女性)(第38週追加報告分含む)あり, 本年の累積報告数は32例となりました。  
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。  
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(80歳代男性)あり, 本年の累積報告数は9例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が1例(20歳代女性)ありました。症状は丘疹性梅毒疹で, 感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は47例となりました。
- ・ **手足口病**の定点当たり報告数は, 京都市が0.63(27例)で4週連続して増加, 全国が1.14で7週連続して増加しており, 増加傾向にあります。都道府県別では, 福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 宮崎各県で警報レベルの発生状況で, 九州地方で流行がみられます。京都市では流行と言える状況にありませんが, 今後の動向に注意が必要です。
- ・ **ヘルパンギーナ**の定点当たり報告数は, 京都市では前週0.58(25例)から1.40(60例)に急増しました。要因や継続性はわかりませんが, 増加傾向にあることと, 流行閾値(過去のデータから算出した値で, それ以上増えたら, その時点ではかなり多いと考えられる値)を上回ったことから注意が必要です。全国では, 第32週以降ゆるやかな増加傾向にありますが, 過去5年平均値には達しておらず, 今週の定点当たり報告数は0.52でした。

## ◆ 今週のトピックス: <ダニ媒介感染症>

ダニ媒介感染症とは, 病原体を保有するダニにかまれることによって起こる病気のことです。病原体の種類には細菌とウイルスがあります。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

(性別, 年齢, 症状, 感染地域<sup>\*</sup>, 感染経路<sup>\*</sup>の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- ・ 二類: 結核 4例(肺結核 なし, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 182例(肺結核 61例, その他結核 56例, 潜在性結核感染者 65例)うち喀痰塗抹陽性 28例】
- ・ 新型コロナウイルス感染症 176例【1月以降の累積報告数20,860例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 32例】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 47例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

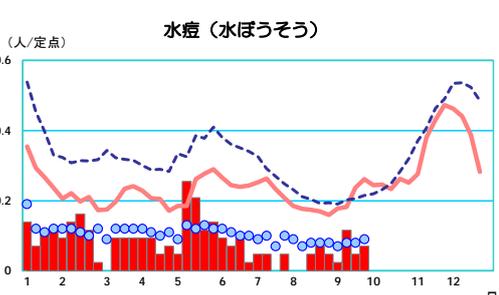
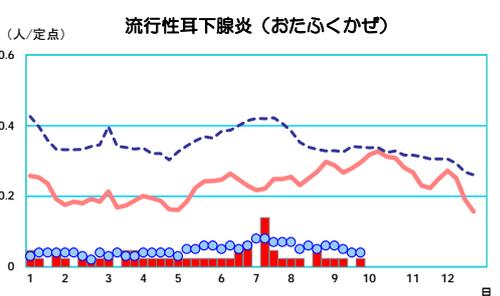
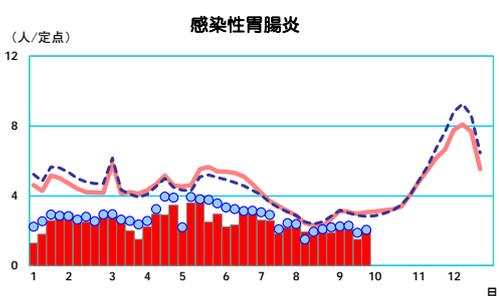
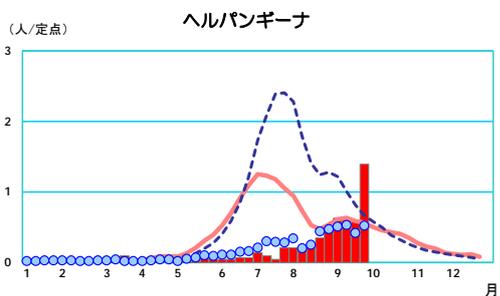
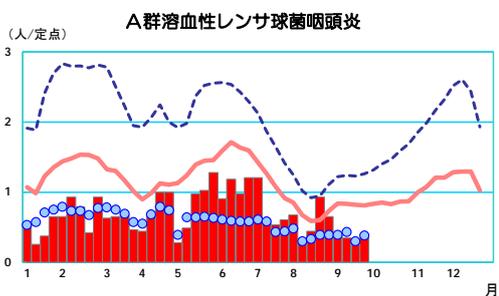
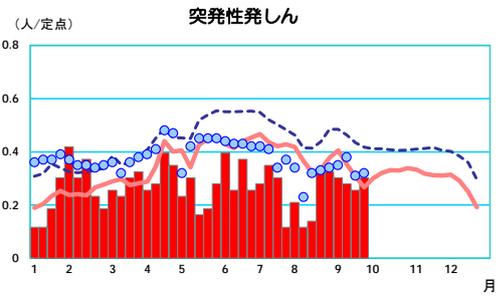
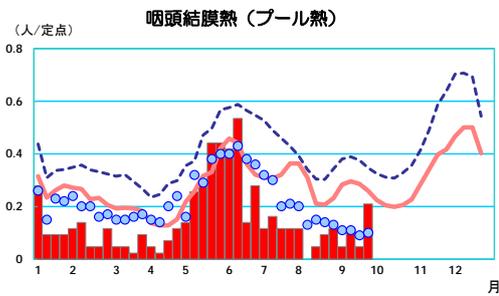
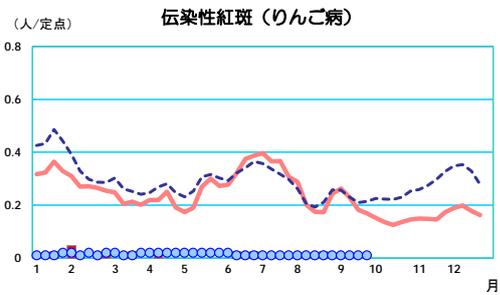
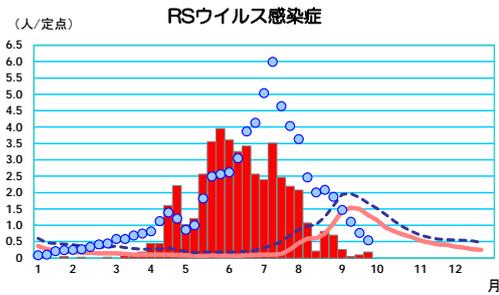
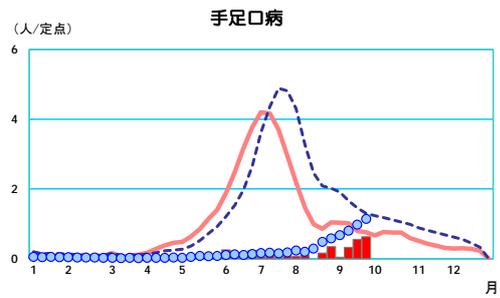
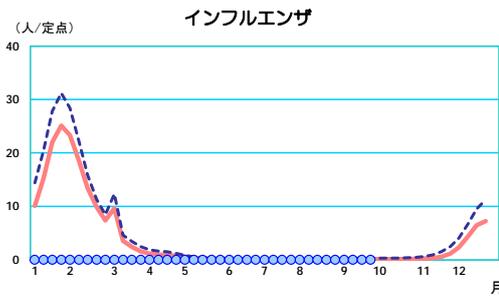
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ <sup>a</sup>	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.02	87
	② ヘルパンギーナ	1.40	60
	③ 手足口病	0.63	27
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	15
	⑤ 突発性発しん	0.30	13
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

### 【次ページ以降の主な内容】

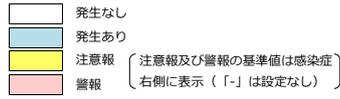
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <ダニ媒介感染症>  
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年10月6日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。  
<sup>\*</sup> 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

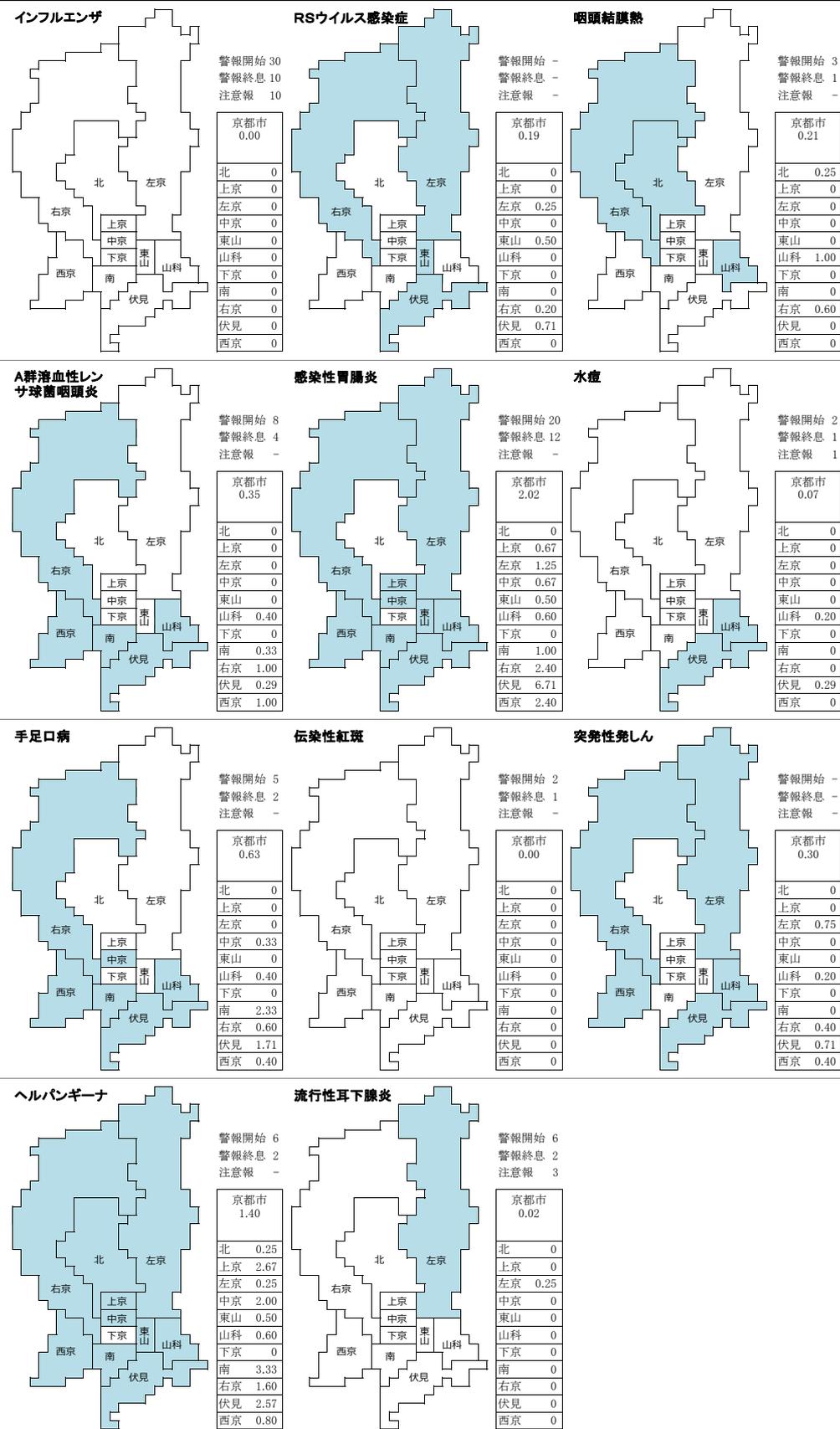
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年第39週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。  
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や  
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



## 第39週(9月27日～10月3日) トピックス: <ダニ媒介感染症>

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニにかまれることによって起こる病気のことです。病原体の種類には細菌とウイルスがあります。

細菌\*が原因の感染症には、日本紅斑熱、Q熱(きゅーねつ)、つつが虫病、ライム病、野兔病(やとびょう)などがあり、ウイルスが原因の感染症には重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎などがあります。

\*病原体はリケッチア、スピロヘータと分類される場合もあります。リケッチアもスピロヘータも細菌の一種です。

京都市では、2016年以降において、日本紅斑熱が2017年(1例)、2019年(3例)、2020年(2例)、SFTSが2016年に1例報告がありました。

全国の発生状況を2016年以降で見ると、Q熱、ダニ媒介脳炎、野兔病及びライム病はほとんど報告がないか、もしくは少数である一方で、SFTS、つつが虫病及び日本紅斑熱の報告が比較的多くなっています。これらの感染症の発生動向を週別累計報告数で見ると、日本紅斑熱とSFTSの報告数は5月から11月に多く、つつが虫病は10月中旬から12月にかけて急増する傾向があります(図1)。

また、2016年以降の地域別報告数の累計を見るとSFTSは西日本地域に集中しており、日本紅斑熱についてもSFTSほど顕著ではないものの西日本地域での報告が多くみられます。しかし両疾患ともに東日本地域からの報告も散発的にあり、感染の可能性がある地域は潜在的に広がっていることが考えられます。つつが虫病に関しては北海道を除く全国で報告があります(図2)。

マダニやツツガムシなど、ダニの種類によって持っている病原体は異なりますが、病気にならないための予防策はダニにかまれないようにすることです。これからの季節はハイキングや山菜採りなどで、ダニが多く生息する野山や藪などに近づく機会が増えます。予防対策には大きく分けて二つあり、一つは肌を露出しない服装をすること、もう一つは忌避剤(虫よけ)を使用することです。

小児は自分自身で感染症を予防するという意識が少なく、ハイリスクの場所や服装に注意が及びにくいので、大人からの助言や服装をチェックすることで感染症から身を守る意識付けをしましょう。また、虫よけ剤は使用上の注意をよく読んで使いましょう。

野山で活動した後は体調の変化に注意し、発熱等の症状があれば医療機関を受診して下さい。皮膚に付着したダニを見つけた時は無理に引き抜こうとせず、皮膚科などで除去してもらいましょう。

京都市衛生環境研究所では、マダニに関する情報を御紹介していますので、ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆーす(平成29年度 第1号) マダニにご注意!

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

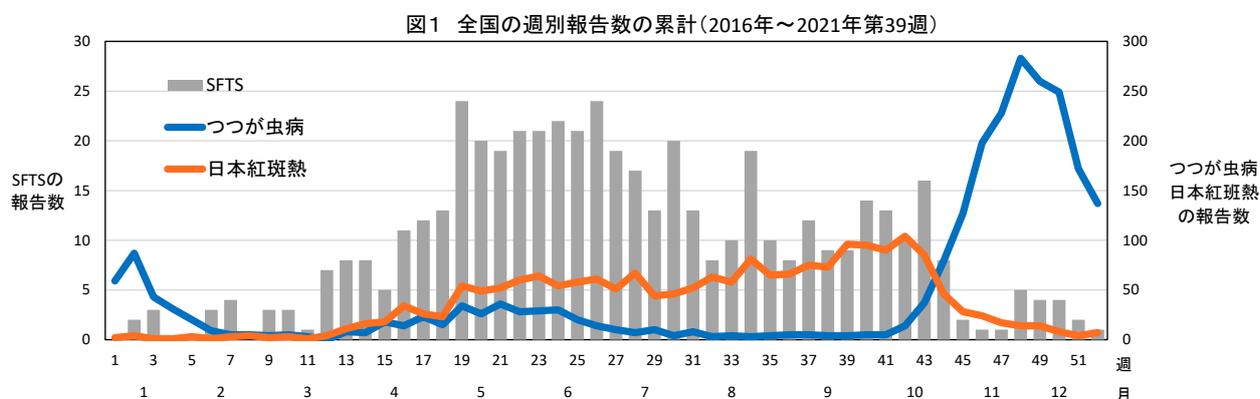
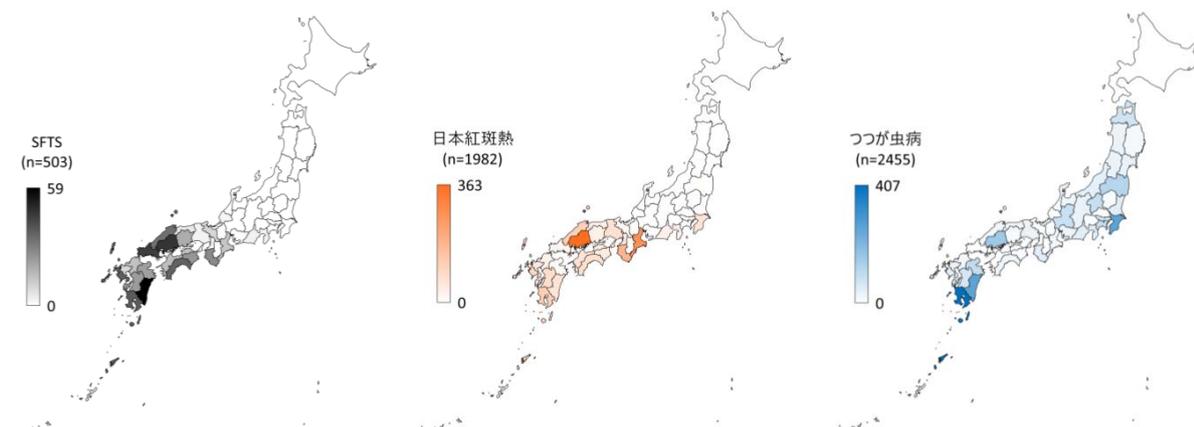


図2 SFTS, 日本紅斑熱, つつが虫病の地域別累計報告数(2016年～2021年第39週)



T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第39週

疾病,行政区別報告数

2021年9月27日～2021年10月3日

データ入手日:2021年10月6日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	2	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	1	-	-	5	-	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	2	-	1	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	5	2	3	1	2	-	1	3	-	-	1	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1	3	-	7	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	1	3	5	12	-	3	-	2	8	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	5	-	2	47	2	12	-	5	18	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	5	12	-	2	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	8	9	15	87	3	27	-	13	60	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	0.67	-	-	-	-	2.67	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	0.25	-	-	1.25	-	-	-	0.75	0.25	0.25	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	0.67	-	0.33	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	-	0.50	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	1.00	0.40	0.60	0.20	0.40	-	0.20	0.60	-	-	1.00	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	0.33	1.00	-	2.33	-	-	3.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	0.20	0.60	1.00	2.40	-	0.60	-	0.40	1.60	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	0.71	-	0.29	6.71	0.29	1.71	-	0.71	2.57	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	1.00	2.40	-	0.40	-	0.40	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.19	0.21	0.35	2.02	0.07	0.63	-	0.30	1.40	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第39週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年9月27日～2021年10月3日

データ入手日:2021年10月6日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	8	1	4	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		9	-	2	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15	-	-	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		87	4	7	15	10	12	6	4	2	5	3	3	8	1	7	-	-	-	-	-	-
水痘		3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		27	-	2	15	5	1	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		13	-	4	4	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		60	-	6	20	20	8	2	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.19	0.02	0.09	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.21	-	0.05	0.05	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.35	-	-	0.02	0.05	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.02	0.09	0.16	0.35	0.23	0.28	0.14	0.09	0.05	0.12	0.07	0.07	0.19	0.02	0.16	-	-	-	-	-	-
水痘		0.07	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.63	-	0.05	0.35	0.12	0.02	0.05	0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.30	-	0.09	0.09	0.09	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1.40	-	0.14	0.47	0.47	0.19	0.05	0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	0.05	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第39週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年10月6日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	35	30	11	2	4	8
咽頭結膜熱	4	5	2	5	2	9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	28	18	15	11	15
感染性胃腸炎	91	81	96	89	65	87
水痘	3	2	1	5	2	3
手足口病	7	15	2	14	24	27
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-
突発性発しん	14	14	13	12	11	13
ヘルパンギーナ	15	21	27	27	25	60
流行性耳下腺炎	2	1	1	1	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	1	-	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	213	197	171	171	144	225

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.81	0.70	0.26	0.05	0.09	0.19
咽頭結膜熱	0.09	0.12	0.05	0.12	0.05	0.21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	0.65	0.42	0.35	0.26	0.35
感染性胃腸炎	2.12	1.88	2.23	2.07	1.51	2.02
水痘	0.07	0.05	0.02	0.12	0.05	0.07
手足口病	0.16	0.35	0.05	0.33	0.56	0.63
伝染性紅斑	0.02	-	-	-	-	-
突発性発しん	0.33	0.33	0.30	0.28	0.26	0.30
ヘルパンギーナ	0.35	0.49	0.63	0.63	0.58	1.40
流行性耳下腺炎	0.05	0.02	0.02	0.02	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	-	-	0.10	-	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	5.03	4.58	3.98	4.05	3.35	5.39

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。